

団塊のカタログ

第5号

平成8年7月

壮大な紙とインクの無駄と自認しておりますこのカタログも早や5号目、ワシが生まれた昭和23年の項も今号で最終回となります。

この年の流行、物価、さらにはあまり世に知られていない、もしくは忘れ去られようと

しているB級ニュースにスポットを当ててみました。

戦後わずか3年、食うものにも困っていたはずですが、庶民は力強くファッションを追いかけて始めます。

第2章



その4



この年流行ったモノ

- | | |
|----------|-----------|
| ★アロハ・シャツ | ★ロング・スカート |
| ★リーゼント | ★冷たい戦争 |
| ★斜陽族 | |
| ☆主婦連 | ☆ダイヤル110番 |

Tシャツに夏のファッションの主演を奪われて久しいアロハ・シャツ（ハデな色彩とデザイン^{えり}のハワイの半袖シャツのことで、襟が広がっているのが特徴）だけが時代遅れで、ロング・スカートやリーゼントは今でも形を変えてリッパに通用している。

第二次世界大戦が終了して間もなく、戦勝国たちはアメリカ・イギリス・フランスを中心とする西側社会と、ソ連・中国などの東側社会の2つに大きく別れた。

従来の大砲や爆弾でドンパチやるのを熱い戦争（Hot War）とすれば、大国間でお互いに核をチラチラさせるだけで実際には使用せず

直接戦わないのを冷たい戦争（Cold War）といった。

ベトナム戦争で代表されるように、地域紛争に名を借りた代理戦争こそあったものの、一方の雄ソビエト社会主義共和国連邦をはじめとする東欧諸国の崩壊の前に、一発のミサイルも発射することなく終戦を迎え、完璧に過去のコトバになってしまっている。

ユーゴの紛争で見られるように、今後は民族・宗教が直接熱くホットに衝突する。

ここでいう斜陽族とは、戦後貴族制度が廃止され、時世の変化についていけずに没落した上流階級のことを指すのだが、今でもかつて勢いのあった人とか集団が落ちぶれた時に拡大解釈されて使われる。

主婦連は主婦連合会の略で、奥むめおサンらが中心になって結成された主婦の運動団体のことで、戦後の女性の政治運動参加^{バイオ}の先駆^ア的な役割を果たしたが、生活が豊かになっ

た今ではすっかり開店休業状態。

白いカッポウ着とシャモジが、闘う主婦の象徴であった。



おなじみのダイヤル110番が警視庁に設置されたのもこの年からである。

「ドロボーだ!!」「人殺しだ!!」「事故だ!!」と、1分1秒を争う緊急電話である。

3桁にするなら111番がそれこそ一番早そうに思われるが、一呼吸^{ひと}おいておちついて回すようにと、GHQの勧めであえて一番手間と時間のかかる0にしたということだが、ダイヤル式からプッシュ式に移行した今日、あまり意味はない。(プッシュ110?)

この年の新製品

★セロテープ60円 ★缶ピース300円



セロテープはニチバンの登録商標で、商品名としてはセロハン・テープが正しい。

ちなみに、アメリカあたりではなぜかスコッチ・テープが一般的。

蛇足ながらプラモデルはマルサン(わかんねえだろうな)、宅急便はヤマト運輸の登録商標。

売り出し当初の1ヶ60円は今でもこんな値段だが、缶ピースの方は一缶600円になっているから、ちょうど2倍である。

それでも他の物価に比べればマシな方。



★東京・大阪間の国鉄運賃400円

★はがき2円、封書5円

★米10^{kg}375円

国鉄は昭和62年にJRに衣替えしているのはご案内の通りで、平成9年現在東京・大阪間は特急券込みで13,680円、はがき50円封書80円、米10^{kg}5,000円前後。

特別付録

この年のB級ニューズ

哀れ、赤ちゃん

年が明けて間もない1月、いかにも戦後を象徴するようなヒサンな事件が発覚した。

望まぬ妊娠・出産はいつの世にもあるものだが、戦後間もないこの頃は特に多かったようで、戦争未亡人や娼婦など子育てに困った親から養育費を受け取り、乳幼児を預かって育てる私的施設がこの頃やたら多かった。

その中の一つ、新宿の^{ことぶき}寿産院というところで事件は起きた。

なにせ、戦後の食料難の時代である。

赤ちゃんの主食ともいえるべき粉ミルクや砂糖も配給品だったのだが、それを切り詰めてろくな面倒もみず、浮かせた分はそっくり横流しするという悪どい手口で私腹を肥やし、結果、栄養失調・餓死・凍死などで103人のなんの罪もない赤ちゃんが死んだ、いや殺されたというから、いくら戦後の混乱期とはいえ、なんともひどい事件である。

あの帝銀事件でも犠牲者はたったの12人でしかも大人たち、こちらは抵抗も拒否もできない赤ちゃんで一けた違う死者・・・どう考えたってこっちの方が罪が重いと思うのだが主犯格の女院長でさえタッタの懲役8年で決^け着がついている。

この後、類似事件が続発、犠牲者である赤ちゃんのほとんどが不義の子という事情からか親が表ざたにしたくなかったようで、いずれも大した話題にならなかった。

戦後のどさくさのモノ不足ゆえの一時的な悲劇なのだろうが、物資もカネもあり余っている現在でも、大人の身勝手の犠牲になる子供たちは後を絶たない。

より弱い立場のところにシワヨセが来るパターンだけは永久に不滅のようである。

妻子を食った夫

2月になって、神経衰弱の夫（47才）が妻（45才）と子（24才）をマキワリでメッタ殺しにする事件が起きた。

現場に急行した警官は、口のまわりを血だらけにして現場にすわりこんでいる犯人を発見、被害者の肉を食っているかのように勘違いし、尻込みして駐在所に引き返すのだが、逮捕後の取り調べの結果、自殺するつもりで舌をかんだ時の血と判明する。ナーンダ。

犯罪雑誌殺人事件

包丁でメッタ切りされ、背中に「マタコロスナマイキナオンナメ」と刃物で彫りこまれた裸の少女（3才）の死体が発見された。

犯人は16才の少年で、当時流行していた犯罪雑誌を見てマネした、と自供。

神戸の小学生殺人事件はけっして初めての事例ではないし、「Yの悲劇」（エラリー・クイーン）「グリーン家殺人事件」（ヴァン・ダイン）も虚構ではない。

生肝伝説殺人事件

紫斑病なる奇病に悩まされていた愛知県在住の男性、人間の生肝なまぎもを食えば直るという迷信を信じこみ、たまたまゴムひもの行商にきた女性を絞殺、肝臓を取り出そうとノコギリで背中を切断したまでは良い（良くない！）のだが、そこで気後れおくしてアッサリ中止、死体を川に投げ込んだという。

恐ろしいといえど恐ろしいが、笑えないこともない。

伝説・迷信の類いにロクなものはないという典型的な見本。

猟奇殺人事件

「羊たちの沈黙」も真っ青の、なんとも悲惨な殺人事件もあった。

被害者は30才の人妻で、頭から下腹部まで真っ二つに切られ、顔の皮ははぎ取られ、内蔵は取り出されてカマス（ワラの袋）詰めにしたというから、想像しただけで気持ち悪くなる。

主犯は24才の女^{きとう}祈祷師で、共犯にはその父親と兄、さらには被害者の実母と実弟も犯行に加わっていたというから、なんとも奇妙でおぞましい事件である。

こんな猟奇事件の3連発を聞くと、神戸の中3の少年や宮崎勤もどうってことないという気になってしまうが、戦後の混乱期と平和な現代との間に共通点でもあるのだろうか。

タイソンも真っ青

一粒で2度おいしいのはグリコだが、一晩に2度も痴漢に襲われてはたまらない。

豊橋市に住んでいる24才になる女性、帰宅途中にまず第一の痴漢に襲われる。

で、コイツと争っているところに夜警員と名乗る男が現れ、その場はそれでおさまるのだが、この第二の男も実はレッキとした痴漢（？）で、いきなり女性の首を絞めにかかるというとんでもないヤツであった。

そこまでは良いのだが（？）キスしようとはばかりに無理やりペロを押し込んだのが運のつき、3秒ほど舌をバッサリと噛み切られてしまい、言語能力を失う（しゃべれなくなってしまう）羽目におちいってしまう。

この犯人、厚かましくも女性の過剰防衛を主張するがむろん認められず、タイソンと違って正当防衛が成立する。

エッチはできないワ、痛い思いはするワ、後遺傷害（？）は残るワ、暴行罪でつかまるワときては、身から出たサビとはいえ同じ男としては同情を禁じ得ない。

「痴漢に注意！」なんて標語をよく見かけるが、こうなると「痴漢も注意！」である。

目標・強姦1000人

これも食料難の敗戦直後ならではの事件である。

配給だけでは食っていけないのはこの頃の常識で、必然的にヤミの米や野菜に手を出さざるをえない。

舞台は山口県下関市、そんな買い出しに来る女性を狙った不埒な男、経済取締刑事と偽り、米や野菜を巻き上げていたが、次第に食欲から性欲を満たすことに方向転換し（するな！）、ヤミ取引を見逃すからヤラせろと女性に迫るようになった。

目標を1000人におき（おくな！）、この年から五年間セッセと強姦にはげみ（はげむな！）、127人目であえなく御用となった。

この不屈き者、戦中は中国各地を転戦、毎日のように中国女性を暴行していたのが忘れられず（問題はあるがとりあえず忘れろ！）今回の事件を思いついたという。

恐喝・窃盗・不当逮捕・強姦・官名詐称と罪名だけは仰々しいが、おそらく大した罪に問われることもなかったと思われる。

終戦直後、文字通り食糧をエサにして女性に近づき、暴行と殺人を繰り返した**小平事件**（犯人の名前が小平義雄。東京都の小平市ではない）というのもあったが、この小平も昭和の初期に中国で婦女暴行の常習者であったというから、同じような事件は繰り返すものである。

日本版ポリ・アカ

2月、大阪府警は2000名の警察官を新規採用したが、その内の400名に早くも不適格の烙印が押された。

その落ちこぼれども、応募した理由が「警官になれば金もうけができるから」「悪事を働くには警官の制服が一番」「民間から金品をふんだくれるから」「いばれるから」とい

うから笑えそうで笑えない。

訓練のキビしさにネを上げたヤツはまだかわい方で、中には過激思想の持ち主とか、ヒドいのになるとヤミ屋の仲間から「生活費は面倒見るから警察の情報を流せ」といわれて素直に応募したヤツもいたという。

「水戸黄門」に出てくる悪役人そのままだが、舞台が大阪府警と聞けば「なるほど」と納得してしまう。

今でもこんなのいそう。

7.860万人

前々年（昭和21年）実施された臨時国勢調査による日本の推定総人口である。

前年比6.23%増、かつ女の方が5%ほど多いというから、前者はワシら団塊の世代第一陣の誕生が原因であり、後者は明らかに戦争の影響であろう。

今は男の方がチョビっと多く、新生児は減り寿命は伸び高齢化社会まっしぐらである。

地で行くグッドバイ

あの太宰治ださい おさむさんが、愛人を道連れに玉川上水に身を投げたのもこの年である。

6月の13日、享年38才、折しも朝日新聞に連載予定の「グッド・バイ」を執筆中だったというから、結構シャレっ気もある。

どちらかといえばクラいイメージばかりが強調される太宰さんであるが、ギャグに命をかけたところをみると、本当はお茶目な人だったのかもしれない。

今こんな事件が起きたらどうだろう。

スポーツ紙の大きな見出しが1面を飾り、ワイドショーのレポーターは「今のお気持は？」と遺族にマイクを向け、出版社はここぞとばかりに増刷し、特に「人間失格」などは大ベストセラー間違いない。

・・・次号から昭和24年の巻です。